

令和6年度第3回静岡市商業振興審議会 会議録

- 1 日 時 令和6年12月25日(水) 9:00～11:00
- 2 場 所 静岡市役所 静岡庁舎 本館3階 第一委員会室
- 3 出席者 [委員] 岩崎会長、池谷委員、石川委員、上西委員、鈴木委員、中村委員
橋本委員、牧野委員、村井委員、山本委員
※前田委員、山梨委員はご欠席
[アドバイザー] 上山氏
[事務局] 経済局 気田局次長
商業労政課 平尾課長、横田係長、藤原主査、松本主任主事
大谷・小鹿まちづくり推進課 桑原課長、宮崎係長、原田主査
- 4 傍聴者 15名
- 5 議 題 (1) 静岡市良好な商業環境の形成に関する指針の一部改正について

6 会議内容(要旨)

<次第1 開会>

<次第2 気田経済局次長あいさつ>

<次第3 審議会について>

【事務局】

今回の審議会でご意見をいただきたいポイントについて説明。

<次第4 議事>

議事1 静岡市良好な商業環境の形成に関する指針の一部改正について

【事務局】

資料1～3により、「良好な商業環境の形成に関する指針」の一部改正案に係るパブリックコメントの結果及び「広域交流拠点型商業環境形成ゾーン」の最終案について説明。

(参考)

資料1 「宮川・水上地区の土地利用に関するパブリックコメントの実施について」

資料2 「静岡市良好な商業環境の形成に関する指針の一部改正(案)に係るパブリックコメント結果」

資料3 「広域交流拠点型商業環境形成ゾーン最終案について」

【岩崎会長】

議論に入る前に、まちづくりに関する考え方について、上山アドバイザーからアドバイスを頂きたい。

【上山アドバイザー】

・パブリックコメントについて、100 件近く回答を得られたことは評価できる。事務局が大学に働きかけて、学生から意見を伺う機会を設けたということで、若い世代の声も反映された結果となっている。これからの静岡市を考えていくときに、若い世代がどのようなまちを望んでいるのかしっかりと押さえながら、それに即したまちづくりをしていくことが大切。

・好意的な意見も多い中で、中には新たなゾーンを設けることについて条例・指針の効果検証や今後の必要性を検討してほしいという声もある。自治体の中には、まちづくりを考えるときは論理的に組み立てているものの、評価・検証が得意ではないところもあるため、静岡市としては一定の時期に効果検証・評価をすべき。

・大学との連携を期待する意見もあったが、産学連携の視点を持ちながら、まちづくりを進めていただけたらよい。

・宮川・水上地区のゾーニングについては、資料1の土地利用計画図の中で農業エリア、交流施設エリアにはスポーツ施設が示されている。外から人を呼び込むことを考えると、農業ツーリズムやスポーツツーリズムといった視点も組み込めるとおもしろい。

・まちづくりは土地利用だけでは成立せず、交通体系、水や緑といったアメニティの面も重なってくる。それらを重ねながら、人の動きがどのように流れていくのかしっかりと考えられると良いまちづくりのヒントになるのではないかな。

・事務局からは、設定された延床面積や売場面積について事前にご説明いただいたが、市内外の大型店舗の面積等、根拠に基づいた面積設定をされているということで納得した。ただし、この面積設定が妥当だったのかは、将来適切に評価すべき。一気に面積を上げるのではなく、段階的な設定でもよかったかもしれない。

【中村委員】

・パブリックコメントについて非常に多くの方に回答いただけたことは良かったと考える。学生から意見を聞く場を設けたということで、20 代学生の割合が多くを占めている。事務局からパブリックコメントの意見の内容が紹介されたが、世代ごとの回答の傾向等がわかると、例えば若い世代はこれからのまちづくりをこういう風に考えているんだというように、理解が深まるのではないかな。

・若い世代の意見も大切であるが、年配の方の意見も今までの経験を踏まえての意見であるため大切にしていけるべき。

【上西委員】

・まちづくりについて考えていく中で、我々が感じている静岡市の問題点をあげていくと、人

口減少、商業面だと店舗の縮小均衡、オーバーストアといった点がある。縮小していると感じている原因の1つに、静岡市はインバウンドが少ないことが挙げられる。

- ・パブリックコメントの結果を見て、指針の改正案について、一般の消費者、特に若い世代の意見と既存事業者の意見にギャップが生じていると感じた。ギャップを埋めないと静岡市の衰退は進んでしまうと考えるため、今回市から提示された考え方には賛同している。また、大規模集客施設の審査基準についても、きちんと機能する内容になっているのではないかと感じている。

- ・少数意見を考慮しすぎてしまうとまちなかが衰退してしまう。新しいものができるというよりも身近なところがしっかりと活性化してほしいというのがサイレントマジョリティーなのではないかと考える。

- ・静岡市は、大都市圏に挟まれていることで若い世代の人口流失が進んでいることも大きな問題。しかしながら、それを止めることはなかなかできないと感じるため、そういった方が大人になってまた戻ってきたいと思えるようなまちを目指すことが重要。その解決策の一つが規制緩和である。既存事業者のためだけを考えれば、厳しい規制を続けたほうがよいのかもしれないが、静岡市・静岡県全体で考えると一定の規制緩和が必要と感じる。規制緩和によって活性化の要素が生まれるのであれば、それを我々がうまく活用していくべき。

- ・中心市街地など市内の他エリアへの回遊は勝手には生まれない。既存の事業者や地域の方が今までの魅力をさらにブラッシュアップして魅力を発信していくことが必要。新たな魅力を作り発信することで、宮川・水上地区を訪れた方が「ここにも行きたい」と思えるものをしっかりと我々自身が作っていくことを意識しないといけない。これまで静岡市に来ていなかった人たちが来られるのであれば、その人達が来たくなるようなまちづくりを我々民間事業者が作っていくべき。行政はそれをキュレーションして発信したり、行政でしかできないような観光資源を新しく作ったりしていくべき。

- ・新たなエリアと既存のまちなかの回遊をうまく作って如果能たら、結果的に縮小均衡から抜け出すチャンスが出てくるのではないかな。静岡市に戻ってきたいと感じてもらえるようなまちづくりが重要。将来を見据えた新たな挑戦を期待している。

【山本委員】

- ・パブリックコメントでの売場面積についての意見が紹介されていたが、私としてはこの地区の売場面積は最大1万2千㎡をさらに緩和してもよいのではないかと感じている。

- ・将来のまちを想像することが大切だと思うため、今の高校生や大学生が重要だと考えている。事務局から、若い世代や女性の流出が現在の問題という説明があった。私も上西委員と同様の考えで、県外から来た身としては、静岡市の魅力的なところが若者に伝わっていないため、人口流出が進んでいる面もあると考える。学生たちにわくわくする機会やチャンスを持たせてあげることが重要だが、宮川・水上地区に新しいフロンティアが生まれるほか、東静岡のまちづくりの話も動いている。

- ・パブリックコメントに多くの学生が回答し、まちづくりに参加していることはとても重要で、

若い世代の期待の表れである。ここ2、3年で、自分たちの手でまちを変えられるかもしれないと感じている学生が増えてきていると感じる。宮川・水上地区周辺の静岡大学の学生はもちろん、静岡県立大学や常葉大学などの色々な大学の学生同士で今までなかったような交流が生まれ、このまちを語るといったプロジェクトが進んでいると聞いている。そのような機運が大人達も動かして、全体のパイが広がり、魅力的な動きが広がっていけば、経済の動きを変えるチャンスがあると考えている。

- ・例えば、清水駅前銀座商店街では、毎月色々なイベントを開催するなどの動きが広がっていて、にぎわいができつつある。宮川・水上地区についても、市外県外から来る方々に市全域を回遊してもらうことができれば、静岡市ってこんなにおもしろいんだと感じてもらうことができ、それがいずれ定住につながる可能性もある。

- ・現在静岡市がやっている映画やPVを使ったシティプロモーションがあるが、行政だけをお願いするのではなく、若い世代や中堅世代も一緒になって魅力を発信していけば、将来やってよかった思えるようになるのではないかと期待している。

【鈴木委員】

- ・私の周りの学生も、指針の改正案について賛成している人が多かった。
- ・静岡市に長年住んでいると中心市街地しか行くところがなく、飽きてきてしまっている面もある。宮川・水上地区が中心市街地と異なった魅力のあるエリアであれば、若い世代も呼び込めるのではないかと感じている。
- ・宮川・水上地区を訪れた人が中心市街地にも行きたくなるような仕組みがあれば、両方に効果があると思う。

【牧野委員】

- ・パブリックコメントの結果を見ると、男性が67%と割合が多いが、商売をやっているとお客様の多くは女性である。性別によって意見の傾向も変わってくるのではないかな。市としても、女性の流出が特に問題とのことなので、念頭に置いていただきたい。自社で雇用している従業員もほとんどが女性だが、格安のスーパーマーケット等がほしいという話をよく聞く。
- ・高速道路インター近接のエリアだが、市外でも近距離であれば一般道が使われると思う。

【村井委員】

- ・若い世代が興味を持って市外に出て行くことはよいこと。無理に行かせないように誘導すべきではない。一方で、若い世代に活躍してもらうためには、一定程度の収入が得られる魅力的な雇用が市内にあることが必要である。企業が賃金を上げられる仕組みを考える必要がある。
- ・最近では、静岡市歴史博物館の来場者数が予測と乖離していたという話もあった。宮川・水上地区もそうならないために、他市の事例も踏まえて、どのような評価軸を持って動くべきなのか参考にしながら取り組むべき。

【石川委員】

- ・パブコメ結果について、クロス集計によって年代ごとの意見の傾向を具体的に分析できるため、参考にさせていただきたい。
- ・指針改正案については賛成多数で期待されているため、おおむね案のとおり進めていただければと思うが、一方で中心市街地の商店街等は懸念も感じている。行政として中心市街地へ何らかの投資や支援をしていくべき。
- ・広域交流拠点型商業環境形成ゾーンの最終案の但し書きでは、「共存しない商業集積の誘導は想定しない」とあるが、中心市街地と共存しないものは駄目だとはっきりとした文言にした方がよいのではないか。
- ・また、想定顧客が「県内外からの来訪者」となっているが、インバウンドも視点に取り入れたらどうか。伊豆の大室山でインスタグラムを利用した発信を行ったことで、買い物目的ではなく体験目的で来るインバウンドがたくさんいるということだった。宮川・水上地区でも、プラモデルや特産品を置くような施設も検討されているので、「国・県内外からの来訪者」という記載にしてもよいのではないか。

【岩崎会長】

ゾーニングの文言について事務局から補足等はあるか。

【事務局】

今回いただいたご意見を踏まえて、再度内部で検討し決定する。

【中村委員】

- ・新しい大きいエリアができると中心市街地がダウンしてしまう原因になるかのように予想される方もいるが、中心市街地と宮川・水上地区をあまり対比することなく、分断につながってしまわないように気をつけてほしい。先ほど石川委員から、広域交流拠点型商業環境形成ゾーンの最終案の但し書きについてご意見があったが、ゾーニングの中にはっきり文言を記載しないほうがよい。静岡市全体で活性化できていたらよいと考えている。

【橋本委員】

- ・パブリックコメントの中に「中途半端な大きさのものは作らないでほしい」という意見があるが、私も同じ考えである。自宅近所の住民や宮川・水上周辺に住む友人と話をした際に、何ができるんだろうとわくわくしている声のほか、交通面での混雑を懸念する声もあった。
- ・牧野委員から話があったとおり、女性は買い物が好きで、色々なところに行く傾向があると思う。私自身も市外に買い物に行くことがあるが、浜松市のコストコやロピアなどは買い物というよりも遊びに行く感覚で行く。山梨県に今後コストコができるということで、清水の友人とは、観光しながら山梨のコストコに行こうという話も出ている。
- ・静岡らしさも大切であるが、1回行って終わりではなくリピートしてもらえるような商業施

設ができればよいと考える。

・中村委員から、まちなかと郊外の関係について言及があったが、私の場合は、まちなかと郊外の商業施設では、別の日にそれぞれ目的を持って行くことが多い。

【岩崎会長】

商業施設は「瞬発力」よりも「持続力」ということは、重要なご指摘である。

【池谷委員】

・この審議会では「商業振興」ということで商業に特化してまちづくりを考えているが、もう少し俯瞰して、ものづくりの観点から静岡を捉えることも大切なのではないかと考える。ものづくりの力がある中小企業が多い静岡市だからこそ、BtoBだけではなくBtoCの視点で表現できるものが宮川・水上エリアにあれば、インバウンドの方の需要にも結びつくのではないかと感じている。

【岩崎会長】

中心市街地とは異なる質の商業を誘導しつつ、観光や農業等との融合による魅力を作っていくことも欠かせない。

【上西委員】

・宮川・水上地区に来た方に中心市街地に来てもらおうと思うと、今ある魅力をしっかりと伝えていくことが必要。人宿町や呉服町の商店街は、我々のような大型店では出せない魅力をもっている。それぞれに役割があるため、まちなかの大型店としても魅力をつくっていききたい。市内の各エリア、各店舗がお互い協力しながら、魅力づくりや情報発信ができるとよい。

・前回の審議会で、宮川・水上地区に城下町の雰囲気を感じさせるものがあるとまちなかへの回遊につながるのではとの意見もあったが、それはまちなかにこそ必要だと考える。歴史のあるまちであるにもかかわらず、城下町風情が感じられるところが少ない。行政からも必要な投資をお願いしたい。

・鈴木委員からお話があったとおり、若い世代がまちなかに飽きてしまうのは当然だと思う。そうはいつても、40, 50代になったときに良い街と思ってもらえるまち、出て行った方も戻ってきたくするようなまちをつくっていければと考えている。

【岩崎会長】

・消費者を飽きさせない持続力が宮川・水上地区にも必要であり、中心市街地は中心市街地ならではの歴史や雰囲気といった魅力を磨いていく必要がある。色んな魅力を持った小さなお店が集積している点が、大型店にはない中心市街地の大きな魅力である。その強みを磨いていく必要があり、それに対する支援を引き続きしていく必要がある。

【上山アドバイザー】

・パブリックコメントのクロス集計の話があったが、本来であれば有効なサンプル数なども考えられるとよい。また、市で商業の実態調査を定期的に行っているのであれば、それと掛け合わせながら分析したり、今後の市民意識調査で確認・分析したりするのもよいかもしれない。

【岩崎会長】

- ・皆様、活発な意見交換をしていただき感謝申し上げます。
- ・面積の緩和については、一定の柔軟性があってもよいとのことで、おおむね現在の案に対し賛同のご意見を頂いた。広域交流拠点型商業環境形成ゾーンということで、これまで市内になかったような魅力のあるエリアにしていく必要がある。
- ・本日の意見をみると、単なる「量」の視点よりも「質」の視点が多かったと感じる。既存と同質の商業集積が宮川・水上地区にできるのであれば、競争になってしまい市民の選択肢は広がらない。これまでになかった新しい価値を生み出すような施設を集積してほしいという意見を多数頂いた。
- ・事務局には、今回の審議会での意見や市民、商業者の方の意見を踏まえ、最終的なゾーニングの決定に向けて、内部の手続きを進めていただければと思う。

<次第6 事務連絡>

<次第7 閉会>